

今日は若八幡宮！

筑豊の
素敵な神様
紹介します



若八幡宮



神社の歴史 History

若八幡神社は、大分の宇佐神宮境内にある若宮神社を勧請した神社で、現在の飯塚市と嘉麻市は、宇佐神宮の多くの神領地(※1)にありました。その中でも宇佐神宮の荘園(※2)とし、嘉麻市山野にある若八幡宮は非常に重要な土地になっていくのです。それから平安時代に入ると、国司(※3)が派遣されるなど新たに勢力を上げ立岩別府(※3)が誕生し若八幡はその支配下になったのです。当時の住民は、若八幡神社がある小高い丘を心城山とも呼び立岩別府管内の総鎮守として御分霊を併せて祀るようになりました。それ以来、年中数多くのお祭りが行われ、流鏝馬・奏楽祭・獅子舞・神楽・手踊など盛んに行われるようになったのです。しかし、永祿四年(1561年)頃には戦火の中心となり社寺も兵火に焼け落ちその後、秋月種実らによって神社が復興しましたが当時の盛行を見るのがしばらく無くなっていったのです。

※1 神領(神社の所有地)
※2 荘園(公的支配を受けない私的所有)
※3 立岩別府 国司(役人・律令制下の地方官)



山野ン楽 Gala

山野ン楽は1958年に福岡県無形文化財に指定され1976年には県条例の改正に伴い、福岡県指定無形民俗文化財となりました。毎年、秋分の日には家内安全・牛馬安全・五穀豊穡の祈願とし始まりは鎌倉時代、今から750年前だと残されています。山野ン楽の元々の由来は、その当時山野村の農業を営む大切な牛が多く亡くなり困った農民たちは古い師を頼りに聞くと『水神様の祟りである、宇佐の楽打ちに習ってしたらよからう』という事から始まり室町～明治時代まで長くに渡り続いてきました。その後、一時お祭りは途絶えた事で再び山野村で頻繁に火災が起き、今度は筑後の古い師を頼りに訳を相談した所、『誓いを破り祭りを止めた事に村の河童が腹を立てている、だから火事が多いのだ』と告げられた事で明治23年(1890年)再び山野ン楽が復活したのです。それから、山野ン楽は日本とベトナムの外交関係にも携わるまでになり、国際交流と文化交流の中で日本交流フェスティバルに招待され『山野ン楽』が披露されたのです。それから今も名を、家内安全・牛馬安全・五穀豊穡を祈願する山野ン楽は地元住民から大切に守られています。



神社のあれこれ教えます！

教えて御祭神

- 第16代天皇仁徳天皇(にんとくてんのう)
- 大葉枝皇子(おおはえのみこ)
- 小葉枝皇子(おはえのみこ)
- 雌鳥皇女(めとりのひめみこ)

どこにあるの？

住 所 / 〒820-0202 嘉麻市山野1619-2
TEL / 0948-42-0693

